

教 科	国語	科 目	言語文化
単 位 数	2 単位	学年・類型	第1 学年・全クラス
使用教科書	高等学校 言語文化 (第一学習社)		
補助教材等	新国語便覧 (第一学習社) 八訂版体系古典文法 (数研出版)		

1 学習目標

○ 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指します。
○ 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにします。
○ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにします。

2 学習方法

○ 連絡した予習課題をして、授業に臨んで下さい。実践力を養うために、週末課題を出します。家庭学習を充実させましょう。
○ 内容を的確に読み取る力を養うため、様々な文章を学習します。古文単語は辞書を使って語句調べをし、現代仮名遣いの確認をして、言語感覚を磨きましょう。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

観点	評価	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
知識・技能		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	○授業態度や発表 ○定期考査・課題テスト ○課題やノートを取り方 ○作品の感想文 ○週末課題の内容
思考・判断・表現		「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	○授業態度や活動・発表 ○作品の感想や感想文 ○定期考査・課題テスト ○課題やノートを取り方 ○週末課題の内容
主体的に学習に取り組む態度		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	○授業態度や発表 ○定期考査・課題テスト ○課題やノートを取り方 ○作品の感想文

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、定期考査、課題テスト、小テスト等の成績、ノートや課題等の提出状況、作文や感想文等の評定、授業態度・出席状況、授業中の発表を総合して行います。学年末の評価は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

授業をしっかり聴くことだけではなく、普段から様々な文章を読むことに挑戦していきましょう。古典分野では、授業ノートを確実に作ることが必須です。また、週末課題をいかに工夫して、自分に役立つ勉強にするのが、成績向上の早道です。地道に勉強を積み重ねていきましょう実践力をつけるためには、自学自習が大切です。

5 学習計画（予定）

月	学習項目	学習のねらい・学習活動
4	〈課題テスト〉 古文の学習	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 ・これからの学習に見通しをもって、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて強く自覚をもとうとしている。
5	児のそら寝	・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合おうとしている。 ・時間の経過による言葉の意味の変化を理解し、学習の見通しをもって調べたり説明したりしようとしている。
6	漢文の学習 訓読に親しむ 漢文を読むために	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。助字のはたらきと意味を習得する。再読文字の種類と読み方を習得する。 ・故事成語や格言に多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにする。
7		・日常的に使う故事成語や格言の量を積極的に増やし、漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解しようとしている。
9	漁父之利 狐借虎威 蛇足	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ・文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。
10	伊勢物語	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。 ・「東下り」では課題に応じて調査する。 ・「芥川」では絵画資料と、「東下り」では他の章段と、「筒井筒」では『大和物語』の同話と、それぞれ読み比べ、解釈を深める。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・「歴史の窓」と「筒井筒」の課題を踏まえて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。

		・主として用言の活用について、文語のきまりを理解する。 ・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。 ・学習課題に沿って異なるテキストと読み比べ、わかったことを積極的に伝え合おうとしている。
11	〔言語活動〕読み比べる・大和物語	・『伊勢物語』の「筒井筒」の段と読み比べ、解釈を深める。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・『伊勢物語』の同話と積極的に読み比べ、『大和物語』の表現の特色を評価している。 ・積極的に読み比べ、『伊勢物語』『大和物語』それぞれの特色や魅力に気づいている。
12	自分の感受性くらい（茨木のり子）	・現代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品にこめられた作者の批判精神を読み取る。 ・「～のせいにはするな」という繰り返しを読み解き、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしている。 ・作者の批判精神を自身に引き付けて受け止め、考えたことを積極的に話し合おうとしている。
1	平家物語	・合戦を主題とした文学作品を読み、争いを背景として生まれた思想や人間のありようを知る。 ・軍記物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れている無常観や武士の生き方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。
2		・主として敬語について文語のきまりを理解する。 ・「古典のしるべ」と読み合わせて、歴史的な文体の変化について理解する。 ・作品に表れている無常観を粘り強く読み取り、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 ・文体の歴史的背景を踏まえて本文を読み、学習の見通しをもって表現や描写・文体の特色を評価しようとしている。
3		